

西東京市立ひばりが丘中学校建替協議会

平成26年度 検討状況取りまとめ

西東京市立ひばりが丘中学校建替協議会は、学識経験者、関係校の保護者、地域の関係者、学校長等により構成され、平成24年度・25年度に西東京市立中原小学校及び西東京市立ひばりが丘中学校建替準備検討協議会において協議した事項も踏まえ、平成26年度にひばりが丘中学校の建替えについて検討を行ってきた。

本資料は、建替校の将来像をメインテーマとして検討を進めてきた協議会の平成26年度の検討状況について、要点をまとめたものである。

目次

1	学校施設の概要等についての検討	1
(1)	学校運営方式	1
(2)	配置計画パターン	1
2	建替校の将来像についての検討	2
(1)	西東京市の学校建設等に係る基本的な考え方	2
(2)	学校視察	7
3	その他	11
	検討経過(平成26年度)	12

1 学校施設の概要等についての検討

(1) 学校運営方式

平成 26 年 7 月に策定された文部科学省の『中学校施設整備指針』には、次の 2 つの学校運営方式が紹介されている。

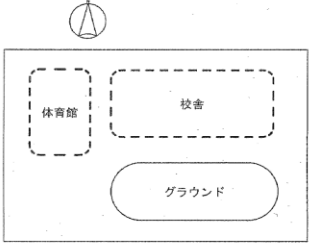
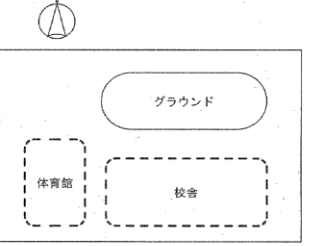
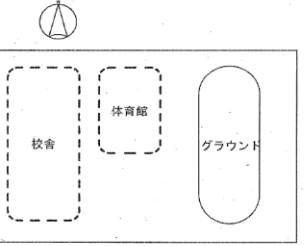
- ・ **特別教室型の運営方式**……通常は普通教室において授業を受けるが、特別な装置等が必要な場合は特別教室において授業を受ける学校運営方式。
- ・ **教科教室型の運営方式**……教科毎に専用の教室があり、生徒が時間割に合わせて各教科の教室に移動して授業を受ける学校運営方式。

※『中学校施設整備指針』（平成 26 年 7 月文部科学省）より抜粋

協議会において、これら 2 つの学校運営方式について比較検討を行い、子どもの移動時間が短くて済むこと、ホームルームで日々を一緒に過ごしていくことによってクラスとしての団結性の向上や友達作りの機会を確保できること、教員が学校全体に目を配りやすくなること等の意見があり、(仮称) 第 10 中学校には特別教室型の運営方式を採用することが望ましいという結論を得た。

(2) 配置計画パターン

校舎と体育館、グラウンド等の配置パターンについては、次の 3 パターンを検討した。こちらについては、周りの環境等の諸条件を含め、引き続き検討課題となっている。

A 校舎北側配置	B 校舎南側配置	C 校舎西側配置
 <p>Diagram A shows a school building (校舎) and a gymnasium (体育館) located on the north side of a ground (グラウンド). A north arrow is shown above the diagram.</p>	 <p>Diagram B shows a school building (校舎) and a gymnasium (体育館) located on the south side of a ground (グラウンド). A north arrow is shown above the diagram.</p>	 <p>Diagram C shows a school building (校舎) and a gymnasium (体育館) located on the west side of a ground (グラウンド). A north arrow is shown above the diagram.</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全棟を敷地北側に配置したことにより、グラウンドへの日照確保が容易になる。 ・ 敷地北側に建物が位置するため、周辺への日影の影響は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全棟を敷地南側に配置したことにより、グラウンドへの日照時間が短くなる。 ・ 敷地南側に配置したことにより、北側隣地へ与える影響は軽減される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラウンドへの日照確保は比較的容易。 ・ 校舎の一部が敷地北側に面しており、日影及び北側斜線への配慮が必要となる。 ・ 校舎に西日対策を施す必要がある。

2 建替校の将来像についての検討

(1) 西東京市の学校建設等に係る基本的な考え方

建替えについての基本的な考え方は、平成 26 年度からスタートした『西東京市第二次基本構想・基本計画』及び『西東京市教育計画（平成 26 年度～平成 30 年度）』に基づき策定された『西東京市立学校施設建替・長寿命化及び大規模改造等事業計画（平成 26～28 年度）』に示されており、（仮称）第 10 中学校の検討の前提条件は以下のとおりである。

1 学校の規模	今後の学校施設の建替え等に当たっては、当該校を取り巻く環境や、地域の実情を勘案し、児童・生徒数の将来推計を考慮するとともに、教育施設として適切な機能を発揮できる規模を検討する。
2 面積等	<p>①普通教室の面積 公立学校施設費国庫負担金に関する関係法令等の運用細目により示されている補助上限面積を考慮するとともに、市内中学校の教室平均面積（約 65 m²）を参考に検討する。</p> <p>②特別教室の面積 特別教室の面積は、現在のひばりが丘中学校の面積（約 100 m²）を参考に検討する。また、（仮称）第 10 中学校を中原小学校として使用する間については、特別教室を普通教室として使用することを考慮して、検討を進める。</p> <p>③共用部分面積 廊下や階段等の共用部分は、市内小中学校の状況を参考にして検討を進める。</p> <p>④校庭面積 校庭面積は、小中学校設置基準及び市内中学校の状況を参考にして検討する。</p> <p>⑤児童・生徒数、クラス数の想定 学校教育法施行規則に定める学級数及び通学区域の児童・生徒数の将来推計による学級数に基づき検討を進める。</p>
3 その他	<p>○中原小学校としての使用 今回の建設スケジュールでは平成 31 年度から 32 年度まで、中原小学校として使用することとしているため、改修に要するコストについても考慮した上で、一定程度、児童にも対応できる施設内容とする。</p>

また、この地域の特徴としては都市計画において、緑の充実が求められており、これらを踏まえ、協議会では「環境を考慮した学校づくり」と「長く使える災害に強い学校づくり」という二つのテーマについて建替校の将来像を検討した。

検討に際しては、①委員が2つのグループに分かれ、話し合いを進めるワークショップを実施したり、②委員全員が自由に意見を述べ、意識を共有することを目的に、ワークシートを用いて意見を聴取し、協議・検討を行った。建替校の将来像に関する主な意見は以下のとおりである。

<校舎・校庭について>

- 教室の型は密閉できる空間（普通教室）と開放空間の両方があると良い。交流授業では、空間に余裕があった方が良いので、教室サイズも可能な限り大きくして欲しい。
- 教室や廊下に余裕を持たせ、フリースペースがあると生徒数の増減に対応できる。
- 子どもの体格の変化、授業形態の変化等を踏まえ、教室や廊下等の面積を従来よりも広くする。また、理科室などの作業を伴う特別教室は、実験台や作業台との間隔が狭い場合もあるので、改善するチャンスではないか。
- 特別教室は、教育のための活用だけでなく、地域住民のための教育施設開放（例えば、家庭科教室は料理教室、技術室はものづくり講座など）、そして避難者のための作業場面になることを考慮し、ガス、電気、石油などの整備を考慮しておくことが大切と思われる。
- 中学生の部活動は精神衛生上や、問題行動を防ぐ意味でも大切であるため、校庭は一年中使えるような環境を整えたいものである。
- 屋上スペースを有効に活用してほしい（例：庭、花壇、プール等）。
- 屋上を活用して、緑のエコスペース、太陽光発電、プールなど配置できると良い。自然を生かした採光や換気があると、生きた環境教育が実践的に学べる。
- 体を動かせる環境について、校庭を作る際、芝生を居住地側、土壌をその反対側に位置することで、養生期間中も体を動かし子どもたちもストレスをためることもなく、また近隣にも土ぼこりが飛びにくい。
- 教師の机に雑然と教材や本が置かれている傾向が多く見られる。教員が作業しやすくするためには、個々の教師の戸棚を設置するか、教材管理などの名目でゆとりがあればその目的のための小部屋を設けることが大切。
- 校長は、自校の学校教育の経営をどうするか責任者であるため、校長室は会議室や応接室的要素を含めず、思考の場である必要がある。また、校庭が見える場でなくてはならない。
- 今後益々重要視される情報教育のための施設を、その時々に対応するのではなく配線など基本的な部分は設計の段階で組み入れておくことが、電子化など後の予算の軽減になるのではないか。
- 光をうまく取り入れ、暑さ（寒さ、暗さ）への対策が可能ならば取り入れて欲しい。

- 木の香りがする校舎が良いのではないか。
- 変化への対応での可動式仕切りは利用する目的によって変化するので、とても良いと感じた。
- ユニバーサルデザインやバリアフリーの要素を取り入れる。
- 電気をできるだけ使わない構造の検討をする。

<緑化について>

- 緑化は大切だと考えるが、芝生化は世話が大変で特にグラウンドは使用出来ない時期が多いと聞いている。
- 緑の多い学校には憧れるが、芝生の運動場は反対。むしろ、児童・生徒の遊び場を奪うことになる。やるなら屋上に緑を。木が多いのも落ち葉の時期が大変。
- 緑化を考慮していることを大変うれしく感じたが、屋上までは予算が行き届かないと思うし、やりすぎかなと思った。
- 緑の多い地域に建つ中学校なので、大きなけやきの木などを配した木陰のできる学校を望みたい。
- 樹木を多くし、四季を感じられるような木々を植えてほしい。
- 屋上緑化、壁面緑化、庭園やビオトープの検討。
- スマートハウスや屋上緑化など、エコの視点も必要。あたたかみのある学校を体感できるデザインが良い。
- 今後の予想される気象変動に対応した、教育環境などを想定し、屋上の緑化など対策にどれほどの効果があるのか、また、維持管理の面なども検証し、世間の動向に惑わされない西東京市独自の施策を考えるべきではないか。
- 子どもたちに自然の大切さや美しさをただ考えるだけでなく、教えられるようなアプローチも大事である。

<災害時への備え>

- 学校は、子どもや地域の人にとって、教育施設だけでなく、これから予想される大地震などの災害に対して、一番身近であり、最も頼りにしている公共施設であることを基本計画におくことが大切と思われる。
- これから先なにが起るかかわからないので、非常の場合の安全な施設にしてもらいたい。
- 一般の方や非常時の出入りのしやすさ、動線も考慮すべきである。
- 住民は災害が起きたときに一番頼りにしているところはなんといっても身近な学校である。学校に多く集まる地域住民に対し、特に暑さ・寒さ対策、照明など体育館の冷暖房の設置が必要。
- 非常時にも使える自家発電の設備や、災害時に簡易便器を設置するだけでトイレとして使用できるよう、校庭に配管の整備が必要ではないか。

○非常時の際はトイレが重要なことと考えられるため、十分に考えていく必要がある。

<地域との関係>

- 今までの学校のイメージに縛られがちだが、できれば、学校と周囲のフェンスを無くし（ボールの飛んでいく方向は残し）て生け垣程度の境とし、地域の人も学校の植栽を手入れするような誰もが気軽に散歩等で立ち寄れる庭を備え、ベンチからは体育の授業が見えるような開かれた学校が良いと思う。また、周囲はジョギングコースをつけ、誰もがいつでも体力維持に使えるように、また体をのぼせる遊具等も設置すると良いと思う。
- 安全対策の面からあまりオープンすぎない方が良い。
- 地域の人との連携をどのようにつくるか。災害時以外での施設利用と人的交流を考慮したコンセプトがほしいと思う。
- 学校が後からできるので、周囲の住民（コミュニティー）や環境に溶け込めるものになるようにする。

<全般的な考え方>

- 生徒にとって生活しやすい環境が第一であると思う。
- 環境や防災の観点から考えたが、根本は教育ではないでしょうか。
- 禁欲的な最低ラインのみを話し合うのではなく夢のあるプラスの部分、豊かさを育てる部分も教育には必要である。基礎・基本と同時に豊かさ・楽しさを施設に付加したい。
- 青嵐中、けやき小の2校について、この施設のここは良かったとか、このような施設がぜひ必要など言われたが実際にはあまり使われなかったなど、当時の管理職などから話を聞き、検証することが大切なことではないか。
- 他区や他市などの新設校の中には、特徴（話題性）を出したいがためにそのことが、学校にとって、その後の維持経費などの面で負担になっているといったケースもあると聞いている。

<建替事業に関する御意見>

- 地域住民に対する説明会の実施をしてほしい。
- 時間はあるようでないのが事実である。ご近所への周知などを先に進めた方がいいのではないか。
- 建設場所が決まっていないので、配置計画パターンを見ても想像することができなかった。
- 一般的な校舎の配置計画パターンを見せていただいたが、どの場所に建つのか、道路はどの位置につくのか分からない状態であったので、はっきり決まってから説明していただきたいと思う。
- 学校建設予定地を早く決め、校舎の向きも出来るだけ早めに決定をお願いしたい。

○中原小、ひばり中の雨漏りがひどいので、1年でも2年でも早急に建替をした方が良く
と思う。

○少しでも実現に向けて（2年でも3年でも）建替計画を前倒ししてくださることを切望
する。

<その他>

○学校周辺環境について、商業施設などが学校周辺にできないよう配慮する。

○ひばり中では学年によってはランチルームで給食をとっているが、そういうスペースも
大切にしたいし、自校式の給食で作るプロセスも見えたならば、色々な方のおかげでこ
の給食もあるという心を育むこともできると思う。

○あくまでも中学生が使用するので、仮住まいの小学生の事は考えの主流から外す。

○将来の児童減少も踏まえて、他にも活用できるような建物作りを検討してはどうか。

○基本的な安全が確保されていることと、どこまでバリアフリー、エコの観点を実現でき
るのか。その上で、特別支援の観点をどこまで加えることができるのか。



※第2回会議ワークショップの様子

(2) 学校視察

協議会では、杉並区立井草中学校の視察を実施した。

杉並区立井草中学校は、特別教室型として建設されており、普通教室、理科室、美術室、音楽室、図書室、多目的スペース、体育館、屋上、プール等を視察した上で、杉並区教育委員会との意見交換も実施した。

学校視察に関する意見等は以下のとおりである。

杉並区立井草中学校 施設概要	
所 在	杉並区上井草3丁目20番11号
建築面積	敷地面積：14,049.50 m ² 建築面積：5,070.21 m ² 延べ面積：10,439.51 m ²
構 造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
工 期	平成22年6月22日から 平成24年7月31日まで

<建物全般>

- 井草中学校の改築のコンセプトが在校生の教育を第一優先にしている。在校生の教育を第一に考え、そのための校舎づくりをまず考えることが重要である。
- 子どもたちがゆったりと落ち着いて授業が受けられる環境だと感じた。物が外に出ていなくて、きちんと収納されており、広々としている印象を受けた。
- 建物はゆったりとつくられていて、勉強するにはとても良い環境だったと思う。
- 環境に配慮した、また災害に備えた学校になっていると感心した。
- 屋上の太陽光発電やLEDの利用、雨水利用、屋上の緑化。ペアガラスで断熱効果を高め、あらゆるところに今考えられる知恵が詰まっていて素晴らしい学校でした。
- 教室のある建物は木のぬくもりがあり、会議室のある建物はキリッと引き締まる雰囲気でもリハリがあり、良いと思った。
- 木のぬくもりが感じられ、生徒も落ち着いた環境の中での生活ができていないのかと感じた。また、自然エネルギー・省エネルギー化や雨水再利用など配慮されている。
- 体格の良くなった生徒に合わせて教室、音楽室、理科室、美術室なども広く、机や椅子、備品なども昔と違うと感じた。暖房も天井に納まり、照明も図書室など、おもしろいデザインだなと思った。
- 外からの光も十分で、とても快適な空間もあり、恵まれた環境で学ぶ生徒達がとてもうらやましいと思った。ただ、電気代やきれいな学校だったので清掃等にコストがかかっているのではと思った。
- 素晴らしい学校であった。コンクリート剥き出しのところは別として、内部の木造が良い雰囲気を醸し出している。また、扉が大きく、ガラスも大きく、良いなと感じた。

<教育面から>

- ラウンジや特別教室の周辺には教科ごとのメディアスペースがあり、実験の結果や作品などのグループごとの討論の場などに活用でき、多様な能力が育成されるのではないかと感じた。

- 屋上に設置されている緑化などの環境教育に関する施設について、植物の栽培などいろいろな活用の方法があると思われる。
- 様々な場所において、教育を優先しつつ、できる限り取り入れていることが分かった。様々なエコロジーに関連する工夫が取り入れられている。この点は大変参考になる。
- 広いピロティやランチルーム、多目的スペースなどがあり、多様な学習活動が展開されているのではないかと思った。

<教室・廊下等>

- 教室や廊下、窓などが広く全体的にゆとりがあるという印象を受けた。
- 教室、会議室の窓は大きく、光が多く入り、明るく開放的に感じた。
- 教室、廊下が木造作りで、あたたかみがあって良いと思った。
- 教室は横長が良いと思った。
- 教室の壁と入口のドアが木材を使っていて、ドアの幅が広い。
- 教室の後ろには、一人一人部活の荷物も置けるほどのゆったりとしたロッカーがあり、教室のゴミ箱もきれいに収納されていて、このように整然とした環境で生徒たちは心落ち着かせて授業を受けることができているのではないかと思った。
- 黒板と電子黒板が一緒になっていると授業も楽しそうである。
- 壁の上部にフックが付けられていた。展示物をさげるのに良い。
- 廊下にテーブルとイスがありオープン的で良い。
- 廊下も広くて、丸テーブルとイスが設置される等いろいろなスペースに利用されている。
- 階段上にその階の案内があると、とても助かる。
- 壁に部屋の名前があるとデザインの的にも明るくわかりやすく良い。

<体育館・校庭・プール>

- 冷房はなく、送風のみであったが、ないよりは良いのではないか。
- 畳が常設であり、予算があればぜひ備えてほしい。
- 体育館の面積は広大である。井草中学校では利用されていないようだが、狭い敷地では体育館の屋上を利用することを考えたらどうだろうか。
- 成長する上で、中学生の時は体を動かすことが大切だと思うが、グラウンドが狭いのが気になった。
- ひばりが丘中学校は井草中学校より校庭を広くしてもらいたいと思った。
- 屋上プールは外部の目を気にしなくて良い（ただし、周囲にプールより高い建物が無いこと）。
- プール、体育館など施設、設備が充実している。

<図書室・音楽室>

- なかなか中学生になると本を読む回数が減ってくるので、防ぐために図書館を通路にするアイデアはとても良かったと思う。
- 図書室も印象的で、賑やかになるという難点があるようだが、読書習慣のない生徒も本を目にする機会が増えて良いと思った。
- 課題解決力を育成することが、小・中学校に強く求められている。コンピューター室と図書室が合体していて、学習時間の中で自由に行き来ができるのは調べ学習などの授業には大変効率が良い。ただ、図書室がもう少し広いと良いと思った。
- 図書室内にテーブルとイスが多数あると、本を読む機会も増えるのでは。
- 音楽室が素晴らしく印象的であった。合唱する場が設けられていて広々として明るい、理想の音楽室だと感じた。楽器が出しっぱなしになっていないのも良いと思った。

<その他施設・設備>

- 保健室と教育相談室が隣り合わせになっていて、養護教諭とカウンセラーとが互いに連携・協力でき、効率的に対応できるのではないかな。
- 校長室は、ソファセットがなく会議用椅子とテーブルのみであった。ソファセットの方が校長室には良いのでは。
- 校長室に水道・食器棚は必要ではないかな。
- 和式便所は各1箇所、男性用小便器あり。洋便器は壁取り付け型であり良い。
- 中庭の植木には土を見せずに竜のひげを植えてあった。夏の反射熱を防ぎ、土ぼこりも防ぐので、良い考えではないかな。
- 太陽エネルギー利用のパネルはいらない。高い割には、効率はどうか。

<防災面から>

- 防災用のトイレ10箇所をはじめ、いざという時に備えた点がとても良い。
- ランチルームが災害に備え細かく仕切りが出来るようになっていたのは良かったと思う。
- 災害救援施設に関しては、井草中学校の設計の段階では、東日本大震災前と思われる。その後、学校には災害時に対する国や都、住民の意識などが変化しているので、この施設を参考に検討が必要と思われる。
- 災害に備えた校舎ではあるが教育優先であり、災害対策について優先順位の中でできることをできる範囲で最大限行うということが分かった。
- 緊急時にどんなものが使えるかということで電気が重要になってくると思う。蓄電池等が必要ではないかと感じた。

<校舎建設に際して>

- 学校は、まず教育を考えて建物を建設していかなければならない。中学生にとってどういいう校舎が良いのか考えなければならない。

- 中学校として建て替えられる校舎を先に小学生が使用することで、トイレの便座のサイズ・手洗いの高さ・廊下の手荷物等の意見が多かったが、あくまでも中学校の建替えだと再認識したい。
- 通常級と支援級が別棟になっていて良いと思ったが、配慮が必要だと思った。
- 取り入れたいと思ったのは、体育館のドア全体についていた内側の木製の格子引き戸、開放更衣室、デッキバルコニーの教室側には網を設置すること、クールヒートトレンチ、ナイトパージ、白射遮へい雨水の再利用、災害時に使用できるマンホールトイレ。壁の色が白く病院っぽく感じたが、特に内装は気に入った。たくさん良い点があったが、ただ、子どもたちが使いやすく安全で避難施設として地域の人達が利用できる中学校を。
- 校舎の構造物は固く冷たいものである。それを緩和するためには木質や布質を採用すると温かく柔らかくなり良い。
- 生徒の平常時の導線と非常時の導線、地域利用のための導線、災害時の導線等、考えられる限りの導線を考える必要がある。
- 地域交流と地域活用とを分けて考える。地域交流は生徒がいるときにどのように生徒と交流するかということである。地域活用は生徒がいないときにどのように施設として地域に開放し、活用してもらうかということである。
- 建物の形としては、今のひばりが丘中学校のようにワンフロアで広い方が、先生方の目が行き届いて良い気がする。
- 子どもが隠れるような死角をつくらない構造が良い。



※第5回会議学校視察（杉並区立井草中学校）の様子

3 その他

協議会での意見の一つとして、中原小学校の建替え時期の前倒しを求める意見を多くいただいた。この意見は、中原小学校の建替えは（仮称）第10中学校校舎の完成後に始まるが、中原小学校の校舎老朽化に伴う雨漏り、トイレ等の実態を踏まえると、少しでも早く、子どもたちが落ち着いて、教育活動に専念できる環境を整備してほしいというものである。

中原小学校の建替え時期の前倒しは、（仮称）第10中学校の建替え事業の前倒しを意味するが、スケジュールに配慮し、今後の取組みを進めてもらいたいという意見が述べられた。

検討経過（平成 26 年度）

会議	年月日	主な検討内容
第 1 回	平成 26 年 10 月 20 日	①委員依頼 ②検討状況等について ③今後の予定
第 2 回	平成 26 年 12 月 15 日	①建替校の将来像について（西東京市の学校建設等に係る基本的考え方）
第 3 回	平成 27 年 1 月 16 日	①建替校の将来像について（西東京市の学校建設等に係る基本的考え方） ②学校施設の概要等について
第 4 回	平成 27 年 1 月 26 日	①建替校の将来像について（学校視察）
第 5 回	平成 27 年 2 月 20 日	①建替校の将来像について（学校視察報告） ②検討結果の確認について